

知的資産経営講座から見いだす 将来の事業ストーリー

株式会社浜野製作所

さらなる業績拡大と社会における存在意義を明確にするために、知的資産経営講座を受講された株式会社浜野製作所に、知的資産経営報告書作成のプロセスとその効果、活用する方法についてお話を伺いました。

第三者の視点で得られる 自社の原動力や強み

(株)浜野製作所は、海外製品との競争やコスト削減などの厳しい経営環境にある金属機械加工業において、順調に業績を伸ばしています。業績拡大を続ける原動力となる自社の強みを的確に把握するとともに、自社のあるべき姿を明確化することを目的に知的資産経営講座を受講し、都産技研と月1回の定期的なミーティングを重ね、知的資産経営報告書を作成しました。

まず、知的資産経営報告書の作成は、創業時から現在までの「事業ストーリー」をたどるところから着手しました。会社を設立した先代から浜野慶一氏への事業承継、業務拡大により変革期を迎えている現在までの会社の歩みを客観的にまとめました。会社のルーツを再確認することで、自社の立ち位置や強みとなるヒントが見えてきたのです。

「第三者から意見をいただくことで、自分たちでは気付かなかった会社の原動力となった重要な局面や、強みを見出すことができました。この作業を通じて、経営理念・方針を見直すことができたと思います」(浜野氏)

次に、現在の取り組みを「現在の事業ストーリー」として簡潔にまとめ、すでに備わっている強みやノウハウを見える化しました。

(株)浜野製作所では、高い技術解

決りや業務内容・活動報告を、ホームページやメールマガジンなどを通して、積極的に情報発信しています。また、企業や学生の工場見学を積極的に受け入れることで、自社の技術力を外部にアピールするとともに、新規事業の創出にも役立てています。このように、情報発信を積極的に行うことで、(株)浜野製作所ブランドの構築を図ることができています。

これらの「高い技術解決力を持った人材」や「浜野ブランド(情報発信力・案件キャッチ力)」などが強みになっていると再確認しました。

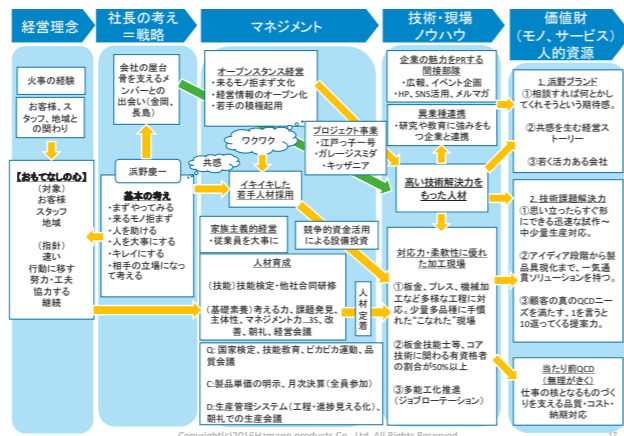
数値では現れない強み・弱みを 明確化し、他社との差別化を図る

さらに、経営理念や事業ストーリーを基にSWOT分析を行い、自社の強み・弱みをわかりやすく整理しました。

「今までは、数値目標ありきの表面的な経営改善になりがちでしたが、知的資産経営報告書は、数値に現れない社員の想いや熱意を反映し、会社のバックボーンに深く切り込んで作成します。森特任技術アドバイザーのアドバイスのおかげで、自分たちが今まで気付いていなかった新たな強みを発見することができました」(浜野氏)

そして、SWOT分析から3年後の自社のあるべき姿を導き出し、他社との差別化を図るために今後必要となる事業改革をまとめました。

「当社の強みである金属機械加工技術を最大限に活かし、顧客満足度をさらに高めるための事業改革が必要です。そのためには、今までのような受託加工だけではなく、設計図作成や予算計画といった“ものづくりの上流”から提案し、他社にない付加価値の高いものづくり



現在の事業ストーリー

顧客企業に届ける価値材である「ブランド力」、「技術課題解決力」、「当たり前QCD」と、それらを生み出す重要な知的資産との関係性を示しています。

数値化されない知的資産の見える化を行う「知的資産経営支援」

知的資産とは、企業の競争力の源泉となる人材・技術・組織・ブランドなどの数字には現れない強みのことです。その企業固有の強みを認識して、有効活用することで収益につなげる経営を「知的資産経営」とよび、都産技研ではその実現に向けた支援を行っています。

支援を希望されるお客さまには、知的資産経営講座を通じて、自社の強みを見える化するために「知的資産経営報告書」を作成していただきます。講師の森 和男特任技術アドバイザーが、現地調査からその後の定期的なヒアリング、知的資産経営報告書の作成まで、一貫してサポートしています。

を行っていく必要があると考えています。

その一環として、平成26年にオープンしたものづくり総合支援施設『Garage Sumida (ガレージスミダ)』の取り組みをさらに拡大していく計画です。企業規模に関係なく、さらには海外企業も含めて、当社と同じように“ものづくりの上流”を目指す人たちのために設備やノウハウを提供し、新たな技術や製品の創出を目指しています。

当社は、単なる“金属機械加工業者”ではなく、“社会の問題解決型企業”を目指しています。顧客が抱える悩みや問題を私たちの強みで解決する、それが(株)浜野製作所の存在意義だと考えています」(浜野氏)

全社員で共有することで さらなる成長を目指す

最後に、今後(株)浜野製作所が目指していく「将来の事業ストーリー」をまとめるとともに、現状と3年後の自社のあるべき姿と比較して整理しました。

「定期的に行う朝礼で、知的資産経営報告書の内容を社員に説明しています。会社の現状や将来像を全社員で共有することで、会社の風土や社員一人一人の意識が高まることを期待しています。知的生産経営報告書を数年後に見直し、業務改善や事業改革を更新して、さらなる経営拡大につなげていきたいと考えています」(浜野氏)

講師からひとこと

全国的に知れ渡る(株)浜野製作所の強みは、この「知名度の高さ」だけではありません。顧客の真のニーズを引き出し実現する「ソリューション力」と、顧客の期待に応えるQCDを作り出す「現場力」が、見事に一体化されています。今回、同社はこうした知的資産を認識し、「お客さまのトータル技術サポーター」の地位を確立していく将来像を明確にすることができました。同社のさらなる発展に期待しています。

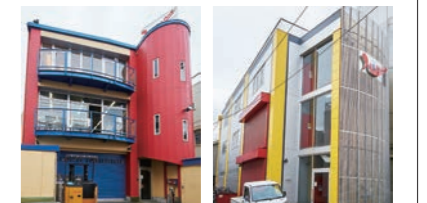
特任技術アドバイザー 森 和男



代表取締役 CEO 浜野 慶一氏

会社概要

代表者/代表取締役CEO 浜野 慶一
創業/昭和53年9月
所在地/東京都墨田区八広4-39-7
URL <http://hamano-products.co.jp/>



技術分野	現状	対応策	具体的活用事例
デザイン開発に係る技術	■	■	IoT機器等、組込みソフトウェア、センサー、通信技術など複数の技術分野にまたがる製品への対応
情報処理に係る技術	■	■	ロボットなど、高精度・高信頼性の位置決め技術を要する、相当高度な機械制御を伴う製品への対応
精密加工に係る技術	■	■	メカトロ技術を活用した生産設備改造、あるいは自社生産による製造効率化
製造環境に係る技術	■	■	3Dスキャナ・3DCADを用い、現物から設計製造に利用可能な3Dデータを作成するノウハウの構築。製品開発への応用
検査・測定に係る技術	■	■	
立降運送に係る技術	■	■	
表面処理に係る技術	■	■	
機械制御に係る技術	■	■	
検査・新機材料に係る技術	■	■	
材料製造プロセスに係る技術	■	■	
バイオに係る技術	■	■	
測定計測に係る技術	■	■	

(株)浜野製作所の知的資産経営報告書目次

1. 代表取締役からのご挨拶
2. 経営理念
3. 企業概要
4. 対応技術分野
5. 沿革
6. 創成～拡大～変革期の事業ストーリー
7. 浜野製作所の強み
8. 現在の事業ストーリー
9. SWOT分析
10. 今後の事業改革
11. 将来の事業ストーリー
12. おわりに

お問い合わせ 技術経営支援室<本部> TEL 03-5530-2308